

「第5次壮瞥町まちづくり総合計画（案）」についての意見募集結果

第5次壮瞥町まちづくり総合計画（案）において、町民意見参加手続により、町民の皆様からご意見を募集したところ、1名からご意見が寄せられました。

※区分

- A：意見を受けて案を修正したもの
- B：案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
- C：案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
- D：案を取り入れなかったもの

意見の概要	意見に対する町の考え方	区分
<p>29ページの柱3 希望に満ちた安全なまちについて、自然災害に強い、安全で安心な暮らしの実現を目指すという柱が立てられているが、災害に強いまちづくりの原点は、「自らの生命財産は自ら守る」という自覚であるため、一般住民には、希望・安全というような言葉は違和感がある。</p>	<p>柱3では、災害に強いまちづくりと各地域の特性を生かす基盤整備の2つの方向性を定めていることから、それぞれの地域振興を図り、希望に満ちた未来へつないでいくことを目的に、「希望に満ちた安全なまち」という柱を設定し、目指す姿を「自然災害に強い、安全で安心な暮らしの実現」としており、たとえ災害を受けてもその先に希望を持てるようなまちづくりを目指すという思いがあります。</p> <p>貴見のとおり、自然災害時では、公助だけではなく自助の部分も大事な視点となってくることから、防災意識を高める取組が必要であると認識しています。柱については、前述のとおり希望を持てるようなまちづくりを目指すということから、希望という言葉を使用しておりますが、目指す姿については、表現を工夫させていただきます。</p>	A
<p>36ページの防災に係る数値目標について、自主防災組織が自治会をベースに構想されている以上、高齢化や単位個数の減、コミュニティ意識の変化から、期待が低いと感じている。</p>	<p>自主防災組織とは、地域住民が協力して「自分たちの地域を自分たちで守る」ために立ち上げる組織のことで、近年、自然災害が多く発生しているため、全国的に必要性が高まっております。貴見のとおり、人口減少、高齢化等が進んでいる現状では、単一自治会での組織は難しいことも考えられますが、防災の基礎である個々人の意識を高める取組を推進し、複数の自治会での組織結成も含め、機運を高めていきたいと考えています。</p>	C

<p>20世紀4回噴火した有珠山の噴火記念日を制定し、防災無線の戸別受信機を活用し、サイレン吹鳴と記念学習会の実施で災害が身近なものであることを周知し、自ら防災の必要性を認識した人材の育成が必要では。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。2000年噴火から約20年が経過していることから、日頃から、防災意識向上に向けた取組を行う必要があると認識しているところであり、提案のあった事項については、今後の実施に向け検討させていただきます。</p>	<p>C</p>
<p>41ページの雪合戦の推進については、若年層の減により、発足当時の「住民パワー」に期待できる部分は弱く、イベントの飛躍的發展と裏腹に行事と組織の維持に行政職員の負担が過重されるばかりで、未来志向の指針を見つけれない。</p>	<p>貴見のとおり、雪合戦を未来へ持続可能なイベントとしていくためには、運営組織強化支援と人材育成支援が必要と考えておりますが、町内では若者が少なくなっていることから、足りない人材を国内外の連盟組織や愛好者たちと分業・連携して補う方向で考えております。長い歴史の中で培ったネットワークを生かした雪合戦の発展を支援していきたいという観点から、基本計画の主な施策の中に、「運営組織の強化と人材の育成支援」を位置付けております。</p>	<p>B</p>
<p>防災については、ジオサイトと洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会に期待することが多い。しかし、現状の協議会には、ジオパーク導入時の生き生きとした住民の参加とパワー発揮の場は限りなく乏しい。1市3町の連合体である協議会では、行政的発想と日本ジオパークネットワーク・世界ジオパークネットワークの意向に終始し、地域住民の思いは反映されていない。壮瞥町の目指す防災人材の育成、防災力の結集は「壮瞥町ジオパーク推進協議会」を立ち上げることで可能であると考え</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。洞爺湖有珠山ジオパーク協議会については、平成24年度から洞爺湖町に事務局を移管しており、ジオパークの素晴らしさを浸透させるために様々な事業を展開しているところであります。貴見の趣旨は、当初の防災への活用という理念が薄れてきていることに警鐘を鳴らしているものと認識しておりますが、地域住民の思いが反映されていないということも含めて、事務局である洞爺湖町と共有し、連携しながら推進したいと考えております。また、町単独の協議会の設立についても、今後の施策の進め方等の参考とさせていただきます。</p>	<p>C</p>
<p>長期避難が想定される避難生活は、快適性を視野に構築されるべきであろう。避難所という施設の提供ではなく、人間性の尊厳を維持できなければ、行政と罹災者の軋轢の因となるであろう。地域防災計画、有珠火山防災計画、職員マニュアル・シナリオ型対応マニュアルによる自然災害対応が実施されるであろうが、時間経過により、実情に合わない部分が散見される。早い機会に整合性を図るべき。</p>	<p>貴見のとおり、避難所では快適な生活を送ることができるように防災備蓄品等を計画的に整備していくことや避難所施設の位置付けや収容人数の見直し等も必要であると認識しております。また、ご提案のあった避難計画等についても、早い段階で整合性を図っていきたくないと認識しており、具体的かつ実践的な避難計画の策定を基本構想及び基本計画に位置付けております。</p>	<p>B</p>